

令和7年度 第2回銚子市介護保険事業等運営協議会 議事録

日 時 令和7年10月2日（木） 午後2時30分から3時25分

場 所 庁議室

出席委員（委員総数16名中13名出席）

実川委員、高橋（玲）委員、泉委員、浪川委員、兒玉委員、金塚委員、宇佐美委員、伊藤委員、
小澤委員、宮澤委員、青柳委員、菅谷委員、鈴木（真）委員
（欠席委員：田代委員、高橋（宏）委員、鈴木（一）委員）

出席職員

小保方課長、井上補佐、林補佐

菱木主査、加瀬主査、江波戸主査、鈴木主査、武藤主査、木藤主任保健師、竹山主事

加藤東部地域包括支援センター長、岩瀬中央地域包括支援センター長、峯岸西部地域包括支援
センター長

【議事】

- (1) 高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の進捗管理について（資料1）
- (2) 第10期介護保険事業計画に向けた準備について（資料2）
- (3) 銚子市地域包括支援センターの公募について（資料3）
- (4) その他

【要旨】

- (1) 高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の進捗管理について（資料1）

地域密着型サービスの基盤整備の見直しについて、反対意見なしで承認を得た。

質疑・意見	事務局回答など
（高橋（玲）副会長） 資料1－4①自立支援・介護予防・重度化防止の課題と対応策で、介護予防に関する活動内容をサポーターを決めて実施することができた。今後は、地域の困りごとに対してサポーターに繋げる体制作りを行うとあると評価されているが、実際にどのような困りごとがあり、どのようにサポーターに繋げるのか。 サポーターがボランティア活動を行うのは、とてもいい取り組みだと思う。	地域の困りごととして、現状で把握していることは、介護保険外サービスでの生活の支援の部分になるかと思う。一部、ヘルパーがゴミ出し等を行っているが、地域の関わりの中で、ゴミ出しや簡単な買い物、外出の支援ができるような地域づくりが必要であり、サポーターの活動に繋げていけるような、体制作りを考えている。

(兒玉会長) 資料１－２ 前期高齢者人口が計画値より減少しているが、転出者が多いのか死亡者が多いのか、何か理由はあるのか。	団塊の世代の方が75歳に到達したことにより、今後、10年のスパンで後期高齢者は横ばいで前期高齢者は減少していく傾向である。しかし、計画上の見込みは機械的に行っており、全国的な推計と高齢化が一步先に進んでいる銚子では長期的な推計とは乖離してしまったと考えている。
(兒玉会長) 認定者数について、要介護３から要介護５が減少し、要支援１から要介護２が増加しているのは全体的に元気な高齢者が増えてきたと考えてよいのか。	元気な高齢者が増えてきたというよりは、フレイル状態の高齢者が増えていると問題意識としてある。あまり楽観視できなく、介護予防重度化防止を強化していかなくはないと考えている。
(兒玉会長) 住宅型有料老人ホームが近隣市も含め増えているようだが、各サービスにおける影響はあるか、各委員に意見を伺いたい。 (鈴木（真）委員) 施設（特養）は面会にも制限があり自由度がないと思われているのか、施設入所を希望されていても、声掛けをすると断られるケースが多い。施設に入所すると感染症等で最終的には制限をかけなくてはならない状況を懸念されている方がいると感じる。 (菅谷委員) 空床ができ待機者の方に声掛けしても、10人中7名程は、グループホームなどに入居したばかりだから特養の入所はまだ先でよいと断られる。実際の申込者数と待機者数がかかなり乖離している現状であり、むしろ今入りやすい状況にあると考えている。遡って、数年前に申し込んだ方に確認すると、亡くなられたり、他の入所系サービスを利用している。また、順番がきても、環境が落ち着いているから現状でよいと断られる。要介護３から要介護５の方でも、特養という選択ではなくなっていると感じる。	

(兒玉会長) 国の方針として、在宅医療を推し進めているが、在宅サービスの訪問看護が増加しており、サービスが充実しているからまだ在宅でいられて施設に入所しなくてもよいと感じるかたが多いのか。 (青柳委員) 施設入所を希望している方も一定数はいる。しかし、施設入所申し込みをしても、まだ在宅で頑張れるから、もう少し先延ばしでいいという方もいる。また、本当に入所が必要なときに申し込みをし、そのタイミングで入所できなければ亡くなる方もいる。 小規模多機能とグループホームの利用率が低くなっている理由は、物価高騰もあり、今後もまた負担割合も変わってくると思うが、高額な年金を受給している方はグループホーム等に入居はするが、家族が負担することとなると金銭面で厳しくなる方もいる。グループホームの料金設定は高く月額 15 万円の負担が大きいと考える方が圧倒的に多いと感じる。特養は費用面で抑えられる。	
(兒玉会長) 資料 1－3 夜間対応型訪問介護と認知症対応型通所介護の実績がないが、サービスを提供する事業者がないのか。利用する方がいないのか伺う。	銚子市には該当の事業所がない。
(兒玉会長) 基盤整備の見直しについて、2 期連続で募集をしたが、参入する事業所がなかった。来年度における再公募については中止とし、計画の見直しをしてよいか意見を伺いたい。 (伊藤委員) 当初は新たな動きがあるため、第 8 期、9 期計画策定時に事業所確保について記載したが、今年度公募するにあたって、その動きのある事業所へのアプローチを何か行ったか。 (兒玉会長) 医療福祉系に関わる国の財源のルールが厳しい。建てても利益がでない状況であり、参入できない	事業所側と、この公募の前段のやり取りの中で、事業所の計画自体が立ち行かなくなっているということで、今回の公募に関しても手挙げができない状況となったことを確認している。 (特に反対の意見は提出されなかったため、令和 8 年度における公募事務は見送ることとする。)

のが現状だと考える。	
------------	--

(2) 第10期介護保険事業計画に向けた準備について（資料2）

質疑・意見	事務局回答など
質問や意見は特になし。 （児玉会長） 意見、提案の目途としては、10月中でよいか。 意見やアイデアがあれば事務局へ提案していただきたい。	はい、今月中にお願いしたい。

(3) 銚子市地域包括支援センター公募について（資料3）

人員体制の常勤換算方法によることを可能とするについて諮り、異議なしにて承認を得た。

質疑・意見	事務局回答など
（児玉会長） 圏域は東部、中央、西部の3圏域で変更はないか。 プレゼンテーションを行い選定となるが、選定委員会の委員は、決定しているのか。	はい、変更はない。 運協委員以外の方で有識者の方へ依頼する予定で日程調整を行っている。

(4) その他

質疑・意見	事務局回答など
（児玉会長） 7月30日に発生した地震による津波警報について、朝早くから避難し、国道や銚子大橋も渋滞し車が動かない状況だった。今回は津波警報発令から津波到達までに時間的な余裕があり対処はできたようだが、困ったことや事務局で把握していることがあれば、教えていただきたい。 松籟の丘やさざんか園は施設が高台にあるが、何か問題はあったか。 （鈴木（真）委員） 在宅の利用者や職員の家族から避難したいとケアマネジャーを通して連絡があった。	困った事例の把握はしていないが、津波浸水区域にある事業所に対して電話掛けを行った。既にその事業所は避難されていて、市の判断よりも早い動きがされており、素晴らしいと感じた。 実際に警報が発令され、市内の事業所のハザードエリアに照らし合わせて、危険エリアを見直しているような状況だった。いろいろな災害のリスクはあるかと思うので、速やかに動けるよう事業所がどの危険エリアにあるのかを可視化をしておく必要性があり、今回の反省点である。

(菅谷委員) デイサービスの通所の利用者が津波避難地域で家族が帰宅できず、家族の帰宅時間に合わせて送迎を行った。施設は津波浸水区域ではないため、施設にいる方が安全ではないかと思う。職員が子供の保育園や小学校のお迎えで、早退しなければならず緊急の対応をしたが大きな混乱はなかった。 (児玉委員) 島田総合病院が避難ビルとなっているが混乱などなかったか。 (児玉会長) 千葉科学大学は以前津波の被害を受けているが、今回はテスト中であり、生徒数が少なくどうにか対処ができたと聞いている。全生徒だと1か所避難は難しく時間もかかる。市で対応について検討しているか。 車での避難について、どうしても考えてしまうのはわかる。日中ならある程度は仕方ない。しかし、南海トラフの地震等の場合、津波の到達まで時間もない。徒歩での避難が基本となる。その点について、市で広報していただきたい。 (宮澤委員) 東日本大震災の時に、千葉科学大学の駐車場は全て浸水した。高神小学校が避難所となったが、中国人留学生を含む学生が多数避難してきて、地域住民が避難してきた時には、受け入れ人数を超えてしまい、学生は自主的に第二中学校へ移動してくれた。しかし、第二中学校は避難所の設備もなく、対応に苦慮した。津波浸水区域では1か所ではなく2か所以上の避難所の設置が望ましい。 (児玉会長) 今回も高神小学校の受け入れ人数100名に対して、千葉科学大学の学生が300名以上避難したと聞いており、第二中学校などに分散して避難できるよう市へ要望は出している。	島田総合病院については特に話は聞いていないが、双葉町のサンラッキー立体駐車場には20名程、避難したと聞いている。 今回の津波避難で課題が上がっていると思う。担当課である総務課危機管理室を中心に検討している。
---	---

(高橋(玲) 副会長) 千葉科学大学の現場で対応したが、学生が多く留学生も大変多いので、拡声器で誘導した。しかし、言葉がわからない学生もあり、中国語や韓国語に訳して誘導をした。大学でも訓練の必要性について改めて認識し、課題がたくさん上がっている。	
(兒玉会長) マイナンバーカードと健康保険証の紐づけをお願いしたい。消防本部で10月1日から傷病者本人の同意を基本として、マイナ保険証を活用して過去の受診歴や服薬情報が閲覧できる実証事業を始めている。どこの病院やクリニックを受診しているのか一目瞭然でわかる。救急隊員が本人のマイナ保険証を活用できるため、本人や家族の負担を軽くし、より適切な処置を受けることができるので、ぜひ、周知に努めてほしい。	

次回開催を令和8年2月頃として報告し、会議終了とした。